

【資料】

第4回 東北地区高速育種運営会議及び

平成26年度 林業研究・技術開発推進 東北ブロック会議育種分科会

黒沼 幸樹¹

9月8日、(独)森林総合研究所東北支所会議室において第4回東北地区高速育種運営会議(以下、高速育種運営会議という)及び平成26年度林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会(以下、育種分科会という)が開催された(写真-1)。

高速育種運営会議とは、各育種基本区において当該基本区の間長等主催のもと平成23年度から開催されており、都道府県に対して次世代精英樹及び特定母樹の開発状況やその性能について情報提供するとともに、その取り扱いや普及に向けた課題について議論されている。

一方、育種分科会とは、旧林木育種センターと旧森林総合研究所の事業・研究に関する戦略が一本化されたことに伴い、「林木育種推進東北地区協議会」から名称を変え、林木育種推進計画の進捗状況の報告、関係機関からの要望事項の提案や情報提供等を行い育種種苗の開発・普及の推進を目的に開催している。

平成26年度は、林野庁、東北森林管理局、東北育種基本区(以下、当基本区という)内の各県及び関係機関ら30名が会議に出席した(写真-1)。

以下に議事の概略を報告する。



写真-1 会議の様子

第4回東北地区高速育種運営会議

東北育種場から当基本区初となるスギエリートツリー9個体が確定したこと、スギ雪害抵抗性二世代品種の候補木として34個体を選抜したこと、第一世代精英樹やエリートツリーから特定母樹として18個体程度を申請予定であるとの説明があった。林木育種センターからは全国でのエリートツリー及び特定母樹の開発状況及び開発の見通しなどについて報告があった。

平成26年度林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会

(1) 林野庁からの説明

カラマツ等の安定的な種子確保及び種子生産量の増産を目的とした苗木安定供給推進事業(拡充)等、各種補助事業について説明があった。岩手県から事業の補助対象に対する質問が出される等、近年のカラマツ種苗の需要の高さが伺えた。

(2) 林木育種事業の推進について

① スギ・アカマツ二世代精英樹の選抜等

東北育種場から285個体のスギ二世代精英樹の候補木を選抜し、今後は選抜したクローン苗の諸特性の評価に取り組んでいくとの報告があった。

アカマツでは、成長が良くマツノザイセンチュウに抵抗性を持つ次世代品種を開発するために、60個体の候補木から採穂しクローン苗を増殖しており、今後は、マツノザイセンチュウの接種検定を行う予定であるとの報告があった。

② スギ雪害抵抗性品種の次世代化

当基本区西部育種区の各県におけるスギ雪害抵抗性品

¹くろぬま こうき 森林総合研究所林木育種センター東北育種場

種からなるミニチュア採種園の造成状況(予定含む)について報告があった。また、スギ雪害抵抗性品種の次世代化に向け、実生後代からの候補木の選抜・採穂・増殖を進めるとともに、第二世代候補木間の人工交配を行い、第三世代選抜のための試験地を造成する予定であるとの報告があった。その他、雪害抵抗性品種等のコンテナ苗を植栽した試験地で、成長や雪害被害の状況を継続的に調査していくと報告があった。

③ マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発

当基本区各県における平成25年度のマツノザイセンチュウ抵抗性候補木の選抜及び接種検定について報告があった。候補木選抜では、72本の抵抗性クロマツ候補木が選抜されたとの説明があった。また、接種検定の実施状況では、アカマツ9クローン、クロマツ56クローンについて二次検定を実施し、このうちアカマツ1クローン、クロマツ15クローンがマツノザイセンチュウ抵抗性品種として認定されたとの報告があった。

東北育種場では、アカマツについては母樹としての抵抗性及び種子生産性の評価に重点を置き、品種数の少ないクロマツについては、一次検定合格木の積極的な活用を関係機関に呼びかけるとともに、さし木による苗木生産モデルの開発といった種苗供給を補完する取り組みを行うこととしている。

④ 採種園の造成・改良・管理

各県の通常・ミニチュアタイプの採種園及び採穂園の造成・改良状況、採種園への開発品種の導入状況、今後の造成・改良計画について報告があった。

マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ採種園について、大震災の津波被害を受けた海岸防災林の再生には大量の抵抗性クロマツが必要である一方、当基本区で抵抗性クロマツ採種園が造成されているのは宮城県のみである。現在、他県も抵抗性クロマツ採種園の造成に取りかかっている。また、岩手県ではカラマツ種苗の需要増加に伴い、採種園の更新や面積の拡大を進め種子の増産と安定生産を図ることとしている。

⑤ 原種の配布

平成26年度の原種配布の進捗状況、今後5ヶ年間の各県に対する種苗配布の計画について報告があった。今後

も各県と連携・調整を図り、県から提出される種苗配布要望計画に基づき計画的な配布に努めることとしている。また、今年度に申請予定の特定母樹についても、種苗配布要望計画に基づいた計画的な配布を行えるよう原種の生産に努めるとの報告があった。

当基本区での抵抗性クロマツ採種園の造成は重要課題の一つである。しかしながら、植栽から雄花の着花までに時間を要することから、マツノザイセンチュウ接種検定一次検定合格木を用いた暫定採種園の先行造成を考慮した種苗配布計画書を提出するよう東北育種場から依頼があった。

⑥ 林木遺伝資源の収集・保存等

東北育種場から林木遺伝資源の収集・保存の進捗状況について報告があった。当基本区は松くい虫被害の最前線であり、また、ナラ枯れ病も拡大していることからマツ類及びナラ類を中心とした探索・収集・保存の緊急性が高い。このため、関係機関に対して両樹種の林木遺伝資源の情報提供の依頼があった。

林木のジーンバンク事業の一環として取り組んでいる林木遺伝子銀行110番では、平成25年度に4樹種5件の利用申し込みを受けたこと、3件のクローン苗木が依頼者のもとに返され(里帰り)、これまでに20件のクローン苗木が里帰りを果たしたとの報告があった。

(3) 各機関からの要望事項について

近年、需要が増加しているカラマツ種苗について、岩手県から林木育種センターに対し、カラマツの次世代精英樹選抜や採種園造成、種子の増産に向けたこれまでの取り組みをより一層推進するよう提案があった。

林木育種センターは、関東育種基本区で選抜・増殖したカラマツ第二世代精英樹のクローン苗を東北育種場に提供し、東北育種基本区におけるカラマツの次世代育種が迅速に推進できるよう協力していく考えであると回答した。

(4) 各機関からの情報提供

東北森林管理局より同局管内におけるコンテナ苗の年度毎の植栽状況について報告があった。

また、同局管内における平成26年度までのブナの開花及び結実状況の報告があった。